

平成 31（2019）年度

中堅養護教諭資質向上研修の手引

栃木県教育委員会

目 次

I 中堅養護教諭資質向上研修実施要項	1
II 中堅養護教諭資質向上研修の概要	
1 本県における中堅養護教諭資質向上研修の方針	2
2 中堅養護教諭資質向上研修体系図	3
III 中堅養護教諭資質向上研修における評価、研修計画書等の作成	
1 研修前評価から研修後の書類提出までの流れ	4
2 「研修前評価」並びに「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」及び 「評価案」の作成	5
3 「研修計画書案」の作成	6
4 「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」並びに「評価案」及び 「研修計画書案」の提出	6
5 教育委員会による調整及び決定	6
6 研修の実施	6
7 「研修後評価」並びに「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」及び 「評価表」の作成	7
8 「研修報告書」の作成	8
9 「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」並びに「評価表」及び 「研修報告書」の提出	8
10 留意事項	8
IV 総合教育センター等における研修	
1 趣旨	9
2 日程及び内容	9
V 校内等における研修	
1 趣旨	11
2 研修日数	11
3 研修内容及び方法	11
4 指導体制	11
5 実施上の配慮事項	11
VI 校内実践	
1 趣旨	12
2 実践テーマの設定	12
3 校内実践の進め方	12
4 校内実践の実施報告	12
〔資料〕	
○ 提出書類の様式	14
○ 研修計画書案（例）	18
○ 校内等における研修項目（例）	19
〔栃木県教員育成指標（養護教諭）〕	20
〔提出文書等チェックリスト〕	22

I 中堅養護教諭資質向上研修実施要項

栃木県教育委員会
平成16年 1月 9日決定
平成18年12月22日改正
平成21年 2月16日改正
平成23年 2月14日改正
平成29年 2月16日改正
平成30年 3月 5日改正

1 目 的

中堅養護教諭資質向上研修は、公立の小学校等における教育に関し相当の経験を有し、その教育活動その他の学校運営の円滑かつ効果的な実施において中核的な役割を果たすことが期待される中堅養護教諭としての職務を遂行する上で必要とされる資質の向上を図ることを目的とする。

2 対 象

県内公立小学校、中学校、義務教育学校及び県立学校の養護教諭のうち、在職期間が10年目に当たる者とする。

3 内 容

- (1) 総合教育センター等における研修 6日
- (2) 校内等における研修 5日

4 研修の実施方法

- (1) 校長は、研修の実施に当たり、県教育委員会の作成した評価項目に基づき、個々の養護教諭の能力、適性等について評価し、評価案及び研修計画書案を作成し、県教育委員会又は市町村教育委員会に提出する。
- (2) 県教育委員会又は市町村教育委員会は、校長から提出された評価案と研修計画書案について調整を行い、決定する。
- (3) 研修計画書に基づいた研修は、総合教育センター等において実施するとともに、総合教育センター等の研修において習得した知識や経験を基に、校内等においても実施する。
- (4) 校長は、研修終了時に個々の能力、適性等を再び評価し、その結果及び研修報告書を県教育委員会又は市町村教育委員会に提出するとともに、その後の研修等に活用する。

5 校内体制の整備

- (1) 校長は、研修計画書に従い、研修が円滑に実施できるよう、校内体制や当該養護教諭の校務分掌等に配慮する。
- (2) 校長は、当該養護教諭が総合教育センター等における研修を受講する間、支障が生じないように配慮する。

6 そ の 他

この要項に定めるもののほか、中堅養護教諭資質向上研修の実施に関して必要な事項は別に定める。

附則

この要項は、平成16年4月1日から実施する。
この要項は、平成19年4月1日から実施する。
この要項は、平成21年4月1日から実施する。
この要項は、平成23年4月1日から実施する。
この要項は、平成29年4月1日から実施する。
この要項は、平成30年4月1日から実施する。

Ⅱ 中堅養護教諭資質向上研修の概要

1 本県における中堅養護教諭資質向上研修の方針

本研修は、在職期間が10年目に当たる中堅養護教諭に対し、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営等の専門的な知識や技能の習得など、個々の能力、適性等に応じて研修を実施し、専門性や実践的指導力の向上を図ることを目的とするものである。

本研修は、栃木県教員育成指標（養護教諭）を踏まえて計画・実施されるものであり、本研修の特徴は、次のとおりである。

- (1) 児童生徒の主体的な学びを促す保健教育の充実
 - 養護教諭の専門性を生かした保健教育の実践
 - 児童生徒の健康課題解決に向けた保健教育の実践
- (2) 同僚等と連携・協働した保健管理の充実
 - 校内組織と連携した保健管理の実施
 - 危機管理における支援体制の整備と保健安全の充実
- (3) 自校の現状を踏まえた保健室経営の充実
 - 学校教育目標の実現に向けた保健室経営
 - 学校医等の専門職や保護者との連携

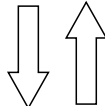
本研修は、研修を受ける者（以下「研修教員」という）の能力、適性等について評価を行い、その結果に基づき、研修教員ごとに研修計画書を作成し、研修を行うものとする。また、研修終了後、再度、評価を行い、引き続き研修教員の指導や研修に活用する。

なお、総合教育センター等における研修と校内等における研修とを密接に関連させることにより、資質・能力の一層の向上を図るものとする。

2 中堅養護教諭資質向上研修体系図

研 修 前	
○研修教員による自己評価に基づく課題や適性等の再確認 ○校長による評価案・研修計画書案の作成	[P 4～6 参照]

[評価案・研修計画書案の提出]
6月末日まで



[決定した評価表・研修計画書の送付]
7月中旬

県立学校

県教育委員会による調整後、決定

市町立学校

市町教育委員会による調整後、決定



研 修		
総合教育センター等における研修内容 《6日》 [P 9 参照]		校内等における研修内容 《5日》 [P 11 参照]
第1日 ～ 第6日	○中堅教職員への期待 ○研修オリエンテーション ○メンタルヘルス ○校内実践計画 ○保健室経営 ○保健教育 ○救急処置 ○健康相談 ○特別支援教育 ○危機管理（救急体制の充実） ○校内実践中間報告 ○児童・生徒指導 ○情報モラル ○整形外科 ○校内実践成果発表 ○20年目に向けて ○ミドルリーダーに求められること 《センター》	総合教育センター等における研修内容を踏まえ、研修教員一人一人の能力、適性等に応じて実践する。 ○健康教育に関する研究授業、教材等に関する研修 ○救急体制の充実に関する研修 ○健康相談に関する研修 ○校内実践 等 《各所属校等》

研 修 後	
○研修教員による自己評価 ○校長による評価表・研修報告書の作成	[P 7～8 参照]

[研修後の評価表・研修報告書の提出]
2月末日まで



県立学校

県教育委員会

市町立学校

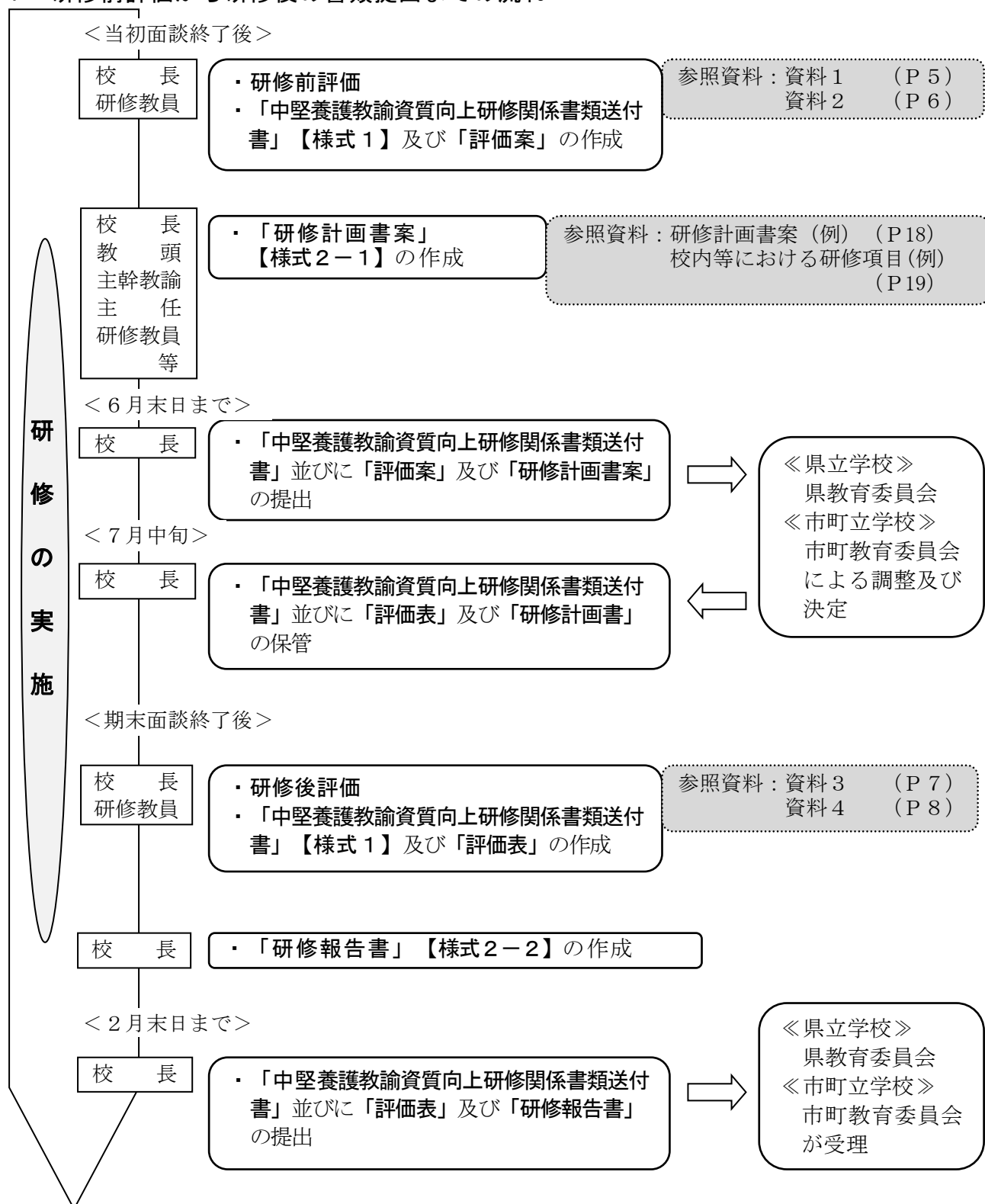
市町教育委員会

Ⅲ 中堅養護教諭資質向上研修における評価、研修計画書等の作成

本研修における評価は、教職員評価制度を活用して行う。校長は、研修教員との当初面談終了後に研修前評価を行い、研修終了後には、研修の成果と期末面談を踏まえて研修後評価を行う。

研修計画書案は、研修前評価を踏まえた上で校長が作成する。研修教員が自らの課題と適性を認識し、主体的に取り組めるような計画を立てる。

1 研修前評価から研修後の書類提出までの流れ



2 「研修前評価」並びに「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」及び「評価案」の作成

当初面談終了後

研修前評価は、「能力・行動自己評価シート」で評価する。「保健教育・保健管理」の他、「児童・生徒指導」「参画・経営」「意欲・態度」のそれぞれの評価区分についても同様に評価する。

校長は、当初面談終了後、研修教員から提出された「能力・行動自己評価シート」をもとに、本研修の「評価案」（資料1参照）を作成する。本来は期末面談時に研修教員が記入する自己評価の欄に、校長が研修前評価を記入する。

校長は、「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」【様式1】（資料2参照）を作成し、研修前の総括的所見を記入する。

（資料1）

様式 1-1-7
平成31(2019)年度 能力・行動自己評価シート(小中、義務教育学校養護教諭・養護助教諭)

学校名	〇〇〇〇〇〇	職名	養護教諭	年齢	〇〇歳	氏名	〇〇 〇〇	中堅研修受講年度
		職員番号	〇〇〇〇〇〇〇	勤務年数	〇年			H 〇〇

※ 年齢及び勤務年数は、当該年度の3月31日を基準とする。

評価区分	評価の着眼点	行 動 規 準	自己評価
保健教育・保健管理	ア 保健教育の工夫	健康問題の解決に向けて、保健教育を適切に行っている。	b
		保健教育について評価し、工夫・改善を図っている。	b
	イ 健康診断・健康相談の企画・運営	健康診断の運営や健康相談等を適切に行っている。	a
		校内組織を生かして、児童生徒の健康管理に積極的に取り組んでいる。	b
	ウ 感染症対策等の計画・立案・実施	関係機関等と連携し、学校環境衛生管理について適切な措置を講じている。	a
		専門的知識を深め、感染症の予防や発生時の対応について、適切な措置を講じている。	b
エ 救急処置及び救急体制の整備	救急処置等の基礎・基本を身に付け、業務を適切に行っている。	a	
	校内研修等で救急体制について共通理解を図り、組織を生かして活動している。	b	

当初面談終了後、校長が記入する。

教員資質能力向上評価 (三研修受講対象者のみ)	基本研修に積極的に参加し、資質・能力を向上させるとともに、在職年数に応じた資質・能力の水準を満たしている。	研修区分		評価	
----------------------------	---	------	--	----	--

第1次評価者	職 名		氏 名		印
第2次評価者	職 名		氏 名		印

※県立学校養護教諭・養護助教諭：様式1-1-7（県立学校養護教諭・養護助教諭）使用

〇〇〇教育委員会教育長 様	《県立学校》栃木県教育委員会教育長宛て 《市町立学校》市町教育委員会教育長宛て	〇〇〇親第〇〇号 〇〇年〇月〇日
学校名 〇〇〇〇〇〇 校長名 〇〇〇〇 印		
平成 31（2019）年度中堅養護教諭資質向上研修における研修前の評価案等の送付について（報告）		
このことについて、下記のとおり報告いたします。		
記		
受講番号	〇〇	この欄に「研修前の総括的所見」を 記入する。
1 研修前の総括的所見		
2 評価案（別紙）		
3 研修計画書案（別紙）		
3 研修報告書（別紙）		

3 「研修計画書案」の作成

当初面談終了後

校長は、「研修計画書案」【様式2-1】（P15）を作成する。なお、作成に当たっては、以下のことに留意する。

- ・「研修計画書案（例）」（P18）及び「校内等における研修項目（例）」（P19）を参考にし、研修前評価に基づいて、教頭や主幹教諭、主任等の協力を得て作成する。
- ・研修前評価について研修教員に説明し、意見や希望等を聴取する。研修教員自らの課題や適性等を認識させるとともに、課題を明確にして本研修に主体的に取り組むよう促す。
- ・校内等における研修の計画については、総合教育センター等における研修内容を踏まえ、研修教員一人一人の能力、適性等に応じて、個々の専門性の向上や得意分野の伸長ができるように計画する。

4 「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」並びに「評価案」及び「研修計画書案」の提出

6月末日まで

校長は、6月末日までに「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」並びに「評価案」及び「研修計画書案」を、県（送付先：学校安全課）又は市町教育委員会教育長宛てに提出する。

5 教育委員会による調整及び決定

7月中旬

県又は市町教育委員会は、校長より提出された「評価案」及び「研修計画書案」について、必要な調整を行い、決定した「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」並びに「評価表」及び「研修計画書」を校長に送付する。

6 研修の実施

5月～2月

校長は、決定した研修計画書に従って研修を実施する。なお、県又は市町教育委員会より送付された「評価表」、「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」については、研修後評価で再度使用するため、校長が保管する。

7 研修後評価並びに「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」及び「評価表」の作成

期末面談終了後

校長は、研修前評価と同様に研修後評価を行う。研修教員より提出された「能力・行動自己評価シート」の自己評価を参考にして期末面談を行い、研修教員を評価し、「評価表」（資料3参照）に研修後評価を記入する。

なお、「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」（資料4参照）に研修後の総括的所見を記入する。

校長はその結果を研修教員に説明し、今後の指導や研修に活用する。

また、第1次評価者及び第2次評価者の中間面談、期末面談の印については不要とする。

（資料3）

様式 1-1-7
平成31(2019)年度 能力・行動自己評価シート(小中、義務教育学校養護教諭・養護助教諭)

学校名	〇〇〇〇〇〇	職名	養護教諭	年齢	〇〇歳	氏名	〇〇 〇〇	中堅研修受講年度	H 〇〇
		職員番号	〇〇〇〇〇〇〇〇	勤務年数	〇年				

※ 年齢及び勤務年数は、当該年度の3月31日を基準とする。

評価区分	評価の着眼点	行動規準	自己評価
保健教育・保健管理	ア 保健教育の工夫	健康問題の解決に向けて、保健教育を適切に行っている。	a
		保健教育について評価し、工夫・改善を図っている。	b
	イ 健康診断・健康相談の企画・運営	健康診断の運営や健康相談等を適切に行っている。	a
		校内組織を生かして、児童生徒の健康管理に積極的に取り組んでいる。	b
ウ 感染症対策等の計画・立案・実施	関係機関等と連携し、学校環境衛生管理について適切な措置を講じている。	a	
	専門的知識を深め、感染症の予防や発生時の対応について、適切な措置を講じている。	b	
エ 救急処置及び救急体制の整備	救急処置等の基礎・基本を身に付け、業務を適切に行っている。	a	
	校内研修等で救急体制について共通理解を図り、組織を生かして活動している。	b	

研修成果を踏まえて校長が記入する。

教員資質能力向上評価 (三研修受講対象者のみ)	基本研修に積極的に参加し、資質・能力を向上させるとともに、在職年数に応じた資質・能力の水準を高めている。	研修区分	評価
----------------------------	--	------	----

第1次評価者	職名	氏名	印
第2次評価者	職名	氏名	印

【注】「児童・生徒指導」「参画・経営」「意欲・態度」についても「保健教育・保健管理」と同様に記入する。

※県立学校養護教諭・養護助教諭：様式1-1-7（県立学校養護教諭・養護助教諭）使用

○○教育委員会教育長 様	《県立学校》栃木県教育委員会教育長宛て 《市町立学校》市町教育委員会教育長宛て	○○○親第○○号 ○○年○月○日 学校名 ○○○○ 校長名 ○○○○ 印
平成 31 (2019) 年度中堅養護教諭資質向上研修における 研修前の評価案等の送付について (報告)		
このことについて、下記のとおり報告いたします。 記		
以上を、当該研修教職員の評価ならびに研修計画とします。		○○○親第○○号 ○○年○月○日 ○○教育委員会教育長 印
○○教育委員会教育長 様	《県立学校》栃木県教育委員会教育長宛て 《市町立学校》市町教育委員会教育長宛て	○○○親第○○号 ○○年○月○日 学校名 校長名 印
平成 31 (2019) 年度中堅養護教諭資質向上研修における研修後の評価表等の送付について (報告)		
このことについて、下記のとおり報告いたします。 記		
受講番号	氏名	
1	研修後の総括的所見	この欄に「研修後の総括的所見」を記入する。
2	評価表 (別紙)	
3	研修報告書 (別紙)	

8 「研修報告書」の作成

研修終了後

校長は、「研修報告書」【様式2-2】に研修を実施した期日、内容等について記載し、「研修報告書」を作成する。

9 「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」並びに「評価表」及び「研修報告書」の提出

2月末日まで

校長は、2月末日までに、研修後評価を記入した「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」並びに「評価表」及び「研修報告書」を、県(送付先: 学校安全課)又は市町教育委員会教育長宛てに提出する。

10 留意事項

研修前、研修後の総括的所見を記入するための「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」は、評価表等を送付する際の添書としても利用する。なお、「中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書」及び「研修計画書案」、「研修報告書」の様式は、総合教育センターの Web サイトからダウンロードできる。

Ⅳ 総合教育センター等における研修

1 趣旨

総合教育センター等における研修は、中堅養護教諭に対して、個々の能力や適性に応じて、専門性や実践的指導力の向上を図ることを目的とする。

2 日程及び内容

(1) 総合教育センターにおける研修

区分	期 日		研 修 内 容	会 場
	月／日	曜		
第1日	5／28	火	講話「中堅教職員への期待」 説明「栃木県教育振興基本計画 2020 ―教育ビジョンとちぎ―」 講話・研究協議「保健室経営の課題と対応」 講話「学校組織マネジメント1～校内実践に向けて～」 講話「教職員に対するメンタルヘルス」	総合教育センター
第2日	7／9	火	講話「保健教育の進め方」 講話「子どものこころを支える健康相談と連携の在り方」 研究協議「学校組織マネジメント2～校内実践計画の検討～」	
第3日	9／3	火	研究協議「学校組織マネジメント3～校内実践中間報告の検討～」 講話・実習・研究協議「救急処置」 講話「学校組織マネジメント4～学校における危機管理～」	
第4日	6月～1月		選択研修（P10 参照）	各研修場所
第5日	12／5	木	講話・研究協議「いじめ・不登校等の理解と対応」 講話「情報モラル」 講話「児童生徒の注意すべき疾病異常の管理と指導―整形外科―」	総合教育センター
第6日	12／17	火	発表・研究協議「学校組織マネジメント5～校内実践成果発表～」 講話「20年目に向けて」 講話「ミドルリーダーに求められること」	

(2) 選択研修

ア 趣 旨

主体的に各種研修や研究大会等に参加することにより、教員としての専門性や幅広い教養を身に付ける。

イ 研修期日

6月から1月までの期間の1日とする。

ウ 選定要件

(ア) 自主的・主体的に選んで参加するもので、次の機関または団体等が主催する研修や研究大会等。

- ① 栃木県総合教育センター
 - ・開催要項に示されている研修のうち、専門研修2、専門研修3、生涯学習研修より選択する。
- ② 栃木県教育委員会、各教育事務所、各市町教育委員会、各教育研究所
- ③ 宇都宮大学及び宇都宮大学教育学部附属幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校
- ④ 栃木県小・中学校教育研究会
- ⑤ 栃木県連合教育会
- ⑥ 社会教育施設

(イ) 研修教員の能力、適性等の向上に役立つと校長が判断した場合、(ア)の機関または団体等以外が主催する研修も認める。ただし、原則として県内のものとする。

(ウ) 選択する研修は、半日以上のものである。研修及び研究大会等が2日以上開催される場合、全日程に参加することが条件である。なお、当センターにおける教育研究発表大会については、各部会の参加をもって選択研修とすることができる。

エ 留意点

(ア) 研修教員は、校長と協議の上、研修または研究大会等を選定する。

(イ) 総合教育センター等における研修の期日との重複を避ける。

オ 研修手続き及び報告書の提出

(ア) 研修手続きは、校長の命令を受けて、各学校が行う。

(イ) 報告書の提出については、次のとおりとする。

- ・研修教員は、「選択研修」が終了した後、「選択研修報告書」【様式3】に必要事項を記入し、校長に提出する。
- ・校長は、研修教員から提出された「選択研修報告書」を確認し、2月末日までに、総合教育センター所長宛て（送付先：研修部）に提出する。
- ・送付する際は、封筒に「中堅教諭等資質向上研修関係書類在中」と朱書する。
なお、「選択研修報告書」の様式は、総合教育センターのWebサイトからダウンロードできる。

V 校内等における研修

1 趣旨

総合教育センター等における研修内容を踏まえて、研修教員の能力、適性等に応じた校内研修を実施することにより、個々の専門性や実践的指導力の向上を図る。

2 研修日数

研修は、年間5日実施する。そのうち、1日を校内実践成果発表に充てるものとする。

3 研修内容及び方法

(1) 内容

研修内容は、評価の結果に基づき、健康教育に関する研究授業、教材等に関する研修、健康相談に関する研修、救急体制の充実に関する研修、校内実践等とする。

内容については、「校内等における研修内容（例）」（P19）を参考にする。

(2) 方法

研修は、原則として学校内において実施し、校長等の指導及び助言を受けるものとする。

また、必要に応じ、総合教育センター等における研修時に校内研修における研修内容を活用・発表する。

4 指導体制

(1) 校長は、教職員全体に対し、本研修の内容及び運営について理解を求めるとともに、学校や研修教員の実情、指導内容と校務分掌との関連等に配慮して、校内等における研修の指導組織及び推進体制を確立する。

(2) 校長等は、研修教員に対し、講話や授業研究等の指導及び助言を行い、年間を通して計画的、組織的な研修となるよう、指導に携わる教職員との連絡・調整を図る。

5 実施上の配慮事項

(1) 校長は、研修教員の個性や経験の状況等に応じ、研修方法や形態を工夫するとともに、研修教員本人の自己評価や意見等を聴取することによって、研修教員が主体的に研修できるよう配慮する。

(2) 校長は、研修教員の校務に支障がないよう、また研修の時間を十分に取ることができるよう、必要に応じて校務分掌等において配慮する。

(3) 校長は、必要に応じて近隣の学校等の協力を得て研修を実施してもよい。



Ⅵ 校内実践

1 趣旨

研修教員の資質・能力や学校の実情に応じ、学校組織マネジメントの考え方・手法を活用しながら健康課題を把握してテーマを設定し、健康教育の充実に向けた特色ある取組を行うことにより、実践的指導力の向上を図る。

2 実践テーマの設定

(1) 主題

「組織を生かした健康教育をめざして」

(2) テーマの設定

次のような例を参考にし、実践テーマを設定する。

《実践テーマの例》

- ・学校、家庭及び地域の医療機関等と連携を図った保健管理の進め方
- ・学校、家庭及び地域社会と連携した保健室経営の工夫
- ・児童生徒の心身の健康づくりを推進する健康相談の進め方
- ・養護教諭の職務の特質を生かした保健教育への参画
- ・生涯にわたり健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの推進
- ・豊かな人間性を育む性に関する指導の充実
- ・生涯を通じて健康な生活を送るための実践力を育てる喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の充実
- ・生涯にわたって健康で安全な生活を送る基礎を培う危機管理

3 校内実践の進め方

- (1) 研修教員は、学校の実情や各自の課題意識、総合教育センター等における研修内容及び第1日（5／28）の「学校組織マネジメント1～校内実践に向けて～」の講話をもとに実践テーマを設定する。第2日（7／9）までに、校長等の指導及び助言を受け、「校内実践計画書」【様式3－1】を作成する。
- (2) 総合教育センター等における研修の第2日（7／9）に、校内実践の進め方について「校内実践計画書」をもとに検討する。
- (3) 研修教員は、校内実践計画について校長の承認を得た後、第6日（12／17）までの間に自主的、計画的に実践する。校長等は、随時、実践についての指導及び助言を行う。
- (4) 研修教員は、校長、総合教育センター職員等からの指導及び助言を参考にして実践を進め、総合教育センター等における研修の第6日（12／17）に、校内実践成果発表を行う。
- (5) 総合教育センター等における研修の第6日以降に、校内等における研修に位置付けられた校内実践成果発表を行う。

4 校内実践の実施報告

校長は、2月末日までに、「校内実践報告書」【様式3－2】及び校内実践における成果の資料を、総合教育センター所長宛て（送付先：研修部）に提出する。

送付する際は、封筒に「中堅養護教諭資質向上研修関係書類在中」と朱書する。

〔資 料〕

○ 提出書類の様式

中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書	【様式 1】
研修計画書案	【様式 2－1】
研修報告書	【様式 2－2】
校内実践計画書	【様式 3－1】
校内実践報告書	【様式 3－2】
選択研修報告書	【様式 4】

(注) 文書の形式はすべて、A 4 判縦、横書きとします。なお、提出書類の様式は、栃木県総合教育センターWebサイトのからダウンロードできます。

※ 栃木県総合教育センターWebサイト

<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

○ 研修計画書案（例）

○ 校内等における研修内容（例）

【様式 1】中堅養護教諭資質向上研修関係書類送付書

〇〇〇教育委員会教育長 様

〇〇〇親第〇〇号
〇〇年〇月〇日

学校名
校長名 印

平成 31（2019）年度中堅養護教諭資質向上研修における研修前の評価案等の送付について（報告）
このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

受 講 番 号		氏 名	
1	研修前の総括的所見		
2	評価案（別紙）		
3	研修計画書案（別紙）		

以上を、当該研修教員の評価ならびに研修計画とします。

〇〇〇親第〇〇号
〇〇年〇月〇日

〇〇〇教育委員会教育長 印

〇〇〇教育委員会教育長 様

〇〇〇親第〇〇号
〇〇年〇月〇日

学校名
校長名 印

平成〇〇年度中堅養護教諭資質向上研修における研修前の評価案等の送付について（報告）
このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

受 講 番 号		氏 名	
1	研修後の総括的所見		
2	評価表（別紙）		
3	研修報告書（別紙）		

【様式 2 - 1】研修計画書案

平成 31 (2019) 年度中堅養護教諭資質向上研修
研修計画書案

〇〇〇立〇〇〇〇〇〇〇〇
校長 〇 〇 〇 〇

1 研修職員氏名
 受講番号 〇 〇
 氏 名 〇 〇 〇 〇

2 研修の重点目標
 (1)
 (2)
 (3)

3 年間研修計画
 (1) 内容
 ア 総合教育センター等における研修 (6 日)
 ・養護教諭の執務に関すること (5 日)
 ・選択研修 (1 日)
 イ 校内等における研修(5 日)
 ・健康教育に関する研究授業、教材等に関する研修 (〇日)
 ・救急体制の充実に関する研修 (〇日)
 ・健康相談に関する研修 (〇日)
 ・校内実践成果発表 (1 日)

(2) 日程及び内容

総合教育センター等における研修内容			校内等における研修内容		
1	研 修 日	総合教育センター等における研修の主な項目を記載する。	1	研 修 日 を 記 入	
2			2		
3			3		
6			5		

※ 日程が確定していないものについては、〇／上のように記入する。

【様式 2 - 2】研修報告書

平成 31 (2019) 年度中堅養護教諭資質向上研修
研修報告書

〇〇〇立〇〇〇〇〇〇〇〇
校長 〇 〇 〇 〇

1 研修職員氏名
 受講番号 〇 〇
 氏 名 〇 〇 〇 〇

2 研修の重点目標
 (1)
 (2)
 (3)

3 年間研修計画
 (1) 内容
 ア 総合教育センター等における研修 (6 日)
 ・養護教諭の執務に関すること (5 日)
 ・選択研修 (1 日)
 イ 校内等における研修 (5 日)
 ・健康教育に関する研究授業、教材等に関する研修 (〇日)
 ・救急体制の充実に関する研修 (〇日)
 ・健康相談に関する研修 (〇日)
 ・校内実践成果発表 (1 日)

(2) 日程及び内容

総合教育センター等における研修内容			校内等における研修内容		
1	研 修 日	総合教育センター等における研修の主な項目を記載する。	1	研 修 日 を 記 入	
2			2		
3			3		
6			5		

【様式 3－1】校内実践計画書

(A4 両面 1 枚)

平成 31 (2019) 年度中堅養護教諭資質向上研修
校内実践計画書

受講番号	
------	--

学校名		氏名	
-----	--	----	--

1 主題

2 実践テーマ

3 学校の状況

(1) 目標

目指す学校像	
本年度の重点目標 (項目)	

(2) テーマに関する自校の課題

児童生徒の課題	組織の課題

4 養護教諭としての具体的な取組

対象と目指す姿	具体的な取組内容 (実施形態・進行計画)

【様式 3－2】校内実践報告書

(A4 両面 1 枚)

平成 31 (2019) 年度中堅養護教諭資質向上研修
校内実践報告書

受講番号	
------	--

学校名		氏名	
-----	--	----	--

1 主題

2 実践テーマ

3 実践内容

対象と目指す姿	具体的な取組内容

4 実践の成果と課題

(1) 成果 (児童生徒と教職員の変容)

(2) 課題

総合教育センター所長 様 〇〇年〇〇月〇〇日 以上のとおり実施しましたので、報告します。 学校名 校長名
--

【様式4】「選択研修報告書」

中堅養護教諭等資質向上研修
選択研修報告書

受講番号		学校名		氏 名	
------	--	-----	--	-----	--

研 修 日	令和 年 月 日 ()
主 催 団 体	
研修または 研究大会等名	
<u>研修内容</u>	
<u>感 想</u>	

総合教育センター所長 様

令和〇〇年〇〇月〇〇日

以上のとおり実施しましたので、報告します。

学校名
校長名

研修計画書案（例）

平成 31（2019）年度中堅養護教諭資質向上研修 研修計画書案					
					〇〇〇立〇〇〇〇〇〇〇〇 校 長 〇 〇 〇 〇
1 研修職員氏名					
受講番号 〇 〇 養護教諭 〇 〇 〇 〇					
2 研修の重点目標					
(1)					
(2)					
(3)					
3 年間研修計画					
(1) 内容					
ア 総合教育センター等における研修（6日） ・養護教諭の執務に関すること（5日） ・選択研修（1日）			イ 校内等における研修(5日) ・健康教育に関する研究授業、教材等に関する研修（2日） ・救急体制の充実に関する研修（1日） ・健康相談に関する研修（1日） ・校内実践成果発表（1日）		
(2) 日程及び内容					
総合教育センター等における研修内容			校内等における研修内容		
1	5/28	講話 「中堅教職員への期待」 説明 「栃木県教育振興基本計画 2020 ～教育ビジョンとちぎ～」 講話・研究協議 「保健室経営の課題と対応」 講話「学校組織マネジメント1 ～校内実践に向けて～」 講話「教職員に対するメンタルヘルス」	1	7/上	教科等における健康教育の実施 第〇学年「けがの防止」
2	7/9	講話「保健教育の進め方」 「子どものこころを支える健康相談 と連携の在り方」 研究協議「学校組織マネジメント2 ～校内実践計画の検討～」	2	9/下	食物アレルギーをもつ児童生徒への 対応研修 「緊急時の対応について」
3	9/3	研究協議「学校組織マネジメント3 ～校内実践中間報告の検討～」 講話・実習・研究協議「救急処置」 講話「学校組織マネジメント4 ～学校における危機管理～」	3	10/下	健康教育の実施 第〇学年「修学旅行の事前指導」
4	〇/〇	選択研修「〇〇〇研修」 研修場所：〇〇〇〇 主催団体：〇〇〇〇	4	12/上	事例検討会 「保健室登校への対応について」
5	12/5	講話・研究協議 「いじめ・不登校等の理解と対応」 講話 「情報モラル」 講話 「児童生徒の注意すべき疾病異常の管理 と指導－整形外科－」			校内実践成果発表 校長講話
6	12/17	発表・研究協議 「学校組織マネジメント5 ～校内実践成果発表～」 講話 「20年目に向けて」 講話 「ミドルリーダーに求められること」	5	1/下	

※日程が確定しないものについては、上（上旬）、中（中旬）、下（下旬）と記入する。

校内等における研修内容（例）

項 目	研 修 内 容 の 例
健康教育に関する研究授業、教材等に関すること	・学習指導要領の理解 ・他教員の授業参観、授業研究 ・評価規準及び評価計画の作成 ・学習評価の方法と実際 ・教科指導法の研究及び実践 ・学習指導案の作成 ・教材分析、教材研究 ・教材・教具の作成 ・健康診断の結果を活用した健康教育の研究と実践 ・教育機器を活用した健康教育の研究と実践 ・職務の特質を生かした指導法 ・総合的な学習の時間における指導法の工夫
救急体制の充実に関すること	・感染症の発生や流行、学校における事件事故・災害に備えた救急体制や心のケアの充実 ・アドレナリン自己注射薬を処方されている児童生徒の緊急時の対応の充実 ・心疾患等学校生活において配慮を要する児童生徒の緊急時の対応の充実 ・緊急時の対応に関する校内研修における指導的役割
健康相談に関すること	・学校教育と健康相談 ・健康相談の理論と実際 ・健康相談の意義と方法 ・健康相談のプロセス ・健康相談に生かせるカウンセリングの技法 ・心の健康問題の理解と対応 ・関係者との連携の在り方と進め方 ・事例検討の進め方
校内実践に関すること	（テーマ例） ・学校、家庭及び地域の医療機関等と連携を図った保健管理の進め方 ・学校、家庭及び地域社会と連携した保健室経営の工夫 ・児童生徒の心身の健康づくりを推進する健康相談の進め方 ・養護教諭の職務の特質を生かした保健教育への参画 ・生涯にわたり健康管理の基盤となる歯・口の健康づくりの推進 ・豊かな人間性を育む性に関する指導の充実 ・生涯を通じて健康な生活を送るための実践力を育てる喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の充実 ・生涯にわたって健康で安全な生活を送る基礎を培う危機管理

栃木県教員育成指標(養護教諭)

とちぎの求める教師像
 ～自信と誇りをもって子どもたちと向き合える教師～
 人間性豊かで信頼される教師
 幅広い視野と確かな指導力をもった教師
 教育的愛情と使命感をもった教師

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
全体指標	養護教諭としての基礎・基本を理解するとともに、教職生活全体を通して自律的に学び続けようとする強い意志をもっている。	教育活動に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、同僚や学校医等からの助言等を得ながら職務を遂行している。	教育活動に必要な専門的知識及び実践的指導力を身に付けるとともに、同僚と協働しながら職務を遂行している。	学校の課題解決を目指し、組織を活性化させたり企画力・実践力を発揮したりするなど、ミドルリーダーとして学校運営に積極的に参画している。	教職生活を通して培った経験のもとリーダーシップを発揮し、学校の教育目標の達成を目指して積極的に学校経営を支え続けている。

○保健教育・保健管理に関する指標

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
保健教育・保健管理全般	保健教育・保健管理の基礎・基本を理解するとともに、教職生活全体を通して自律的に学び続けようとする強い意志をもっている。	保健教育・保健管理の基礎・基本を身に付けるとともに、児童生徒の実態を捉え、同僚からの助言等を得ながら、指導の工夫・改善を図っている。	研修会等への参加、同僚との情報交換やコミュニケーションを通して、効果的な保健教育・保健管理の工夫・改善を図っている。	児童生徒の心身の健康の保持増進及び健康課題の解決に当たって組織的に対応し、他の教職員や医療機関、保護者等と協働して効果的な解決を図るコーディネーターの役割を果たしている。	保健室経営等で培った経験を生かして、学校保健の推進と学校全体の活動に関する調整にリーダーシップを発揮している。
保健教育	保健教育の基礎・基本を理解している。	健康問題の解決に向けて、保健教育の基礎・基本を身に付け、保健教育を適切に行っている。	学校や児童生徒の実態に応じ、効果的な保健教育を行うとともに工夫・改善を図っている。	児童生徒が、自らの心身の健康問題を発見し、対応できるような系統性のある保健教育を行うとともに、工夫・改善を図っている。	リーダーシップを発揮しながら近隣の学校等と連携し、地域レベルでの健康づくりを推進している。
健康診断・健康相談	健康診断・健康相談の基礎・基本を理解している。	健康診断の実施と事後措置や健康相談等を適切に行っている。	児童生徒のこれまでの経過を踏まえた健康相談等を行っている。	健康診断の結果や健康相談の機会等を活用し、校内組織を生かした健康管理に積極的に取り組んでいる。	校内支援体制の推進的役割を意識した健康管理に積極的に取り組んでいる。
学校環境衛生管理と感染症対策	学校環境衛生管理と感染症対策の基礎・基本を理解している。	学校環境衛生管理と感染症の予防と発生時の対応について、管理職や医療機関等と連携し、的確な措置を行っている。	学校や児童生徒の実態に応じ、効果的な保健教育を行うとともに工夫・改善を図っている。	専門的知識を深めるとともに、的確な予防措置を講じている。	情報の収集や環境の変化の把握を迅速に行い、学校でのリーダーシップを発揮するとともに、的確な措置を行っている。
救急処置	救急処置の基礎・基本及び救急体制の整備の大切さを理解している。	救急処置の基礎・基本を身に付けるとともに、同僚と連携して業務を適切に行っている。		校内研修等において、指導的役割を果たすとともに、救急体制について共通理解を図り、組織を生かして活動している。	

○児童・生徒指導に関する指標

	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
児童・生徒指導全般	児童・生徒指導の基礎・基本を理解しているとともに、指導力の向上を目指して学び続けようとする強い意志をもっている。	児童・生徒指導の基礎・基本を身に付けるとともに、児童生徒の実態を捉え、同僚からの助言等を得ながら、指導の工夫・改善を図っている。	指導資料の活用や研修会等への参加、同僚との情報交換やコミュニケーションを通して、指導の工夫・改善を図っている。	児童・生徒指導上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、教職員間の連絡・調整及び実践において、中心的な役割を果たしている。	若手・中堅教員等に児童・生徒指導の範を示すとともに、課題解決に向け、指導計画の見直しや関係機関等との連携等にリーダーシップを発揮しながら組織的に取り組んでいる。
児童生徒との信頼関係の構築	児童生徒理解	児童・生徒指導における児童生徒理解と信頼関係づくりの大切さを理解している。	日常的な関わりや同僚からの情報を得ながら、児童生徒の性格や心身の状況等について理解に努めている。	同僚と積極的に情報交換を行うなどして、児童生徒の多面的・多角的な理解に努めている。	児童生徒一人一人に関する様々な情報を学年や学校全体で共有できるよう、教員間の連絡・調整に当たっている。
	信頼関係づくり・教育相談	児童・生徒指導における児童生徒理解と信頼関係づくりの大切さを理解している。	カウンセリングマインドをもって児童生徒一人一人に共感的、受容的に接し、信頼関係の構築に努めている。	児童生徒の悩み等を的確に把握し、問題解決に向けて同僚と協働しながら対応している。	児童生徒理解に関する専門的な知識を身に付け、同僚への支援・助言を行っている。
児童生徒への指導・援助	予防的・開発的な児童・生徒指導	児童・生徒指導の意義とともに、いじめ、不登校等への対応の基本について理解している。	学級担任や家庭との連携を図りながら、組織的に児童・生徒指導を行っている。	児童生徒の健康課題を的確に捉えるとともに、同僚と協働しながら指導している。	児童生徒の健康課題を予防的な視点で捉え、関係機関等と連携しながら指導している。
	問題行動等への対応	児童・生徒指導の意義とともに、いじめ、不登校等への対応の基本について理解している。	組織的な対応の重要性を理解するとともに、日頃から児童生徒の様子を観察し、問題行動等の未然防止、早期発見、迅速な対応に努めている。	健康相談等を生かして、児童生徒の状況や内面を理解するとともに、同僚と協働しながら対応している。	専門性を生かし、関係機関等と連携のためのコーディネーター的な役割を果たしている。
	専門的な知識・技能を生かした指導	児童・生徒指導の意義とともに、いじめ、不登校等への対応の基本について理解している。	心身の健康問題に関して専門性を生かして、担任や家庭等へ情報提供を行っている。	心身の健康問題に関する専門的な知識や技能を生かし、組織的に課題解決にあたっている。	問題行動等への対応に関して、組織的な対応を進めるとともに、同僚に専門性を生かした支援、助言を行っている。

○参画・経営に関する指標					
	採用時の姿	ステージⅠ (おおむね1年目～5年目)	ステージⅡ (おおむね6年目～10年目)	ステージⅢ (おおむね11年目～19年目)	ステージⅣ (おおむね20年目～)
参画・経営全般	組織の一員として役割を果たそうとする強い意志をもっている。	「報告・連絡・相談」を確実に行うとともに、同僚からの助言等を得ながら、保健室経営に当たっている。	社会の変化に目を向け、広い視野をもつとともに、同僚と協働しながら、保健室経営の見直し等を図っている。	学校経営方針を理解し、学校・家庭・地域の連携をもとに推進することにより保健室経営を学校運営の視点に立て取り組んでいる。	児童生徒の健康づくりを効果的に推進するため、学校保健活動の中核的な役割を果たしている。
校務分掌への取組	校務の一端を担い、組織の一員として働くことの大切さを理解している。	担当する校務分掌について、同僚からの助言等を得ながら、迅速・正確な処理をしている。	担当する校務分掌について、同僚と協働しながら、工夫・改善を図っている。	校務分掌について、工夫や改善をするとともに、広い視野に立って校務に当たっている。	学校全体の組織を把握するとともに、学校保健活動の中心となつてリーダーシップを発揮している。
保健室経営	保健室経営の基礎・基本を理解している。	同僚の助言等を得ながら保健室経営計画を作成し、計画に基づいた保健室経営を行っている。	児童生徒の健康状況等を踏まえた保健室経営を行うとともに、工夫・改善を図っている。	学校経営上の課題を把握し、健康課題等の解決を目指して、家庭や地域と連携しながら組織的な保健室経営を行っている。	
学校経営への参画	組織の一員として、組織的に対応することの大切さを理解している。	「報告・連絡・相談」を確実にを行いながら、校内組織での自らの役割を果たしている。	学校経営方針を理解し、同僚と協働しながら、校務に組織的に取り組んでいる。	学校組織マネジメント、カリキュラム・マネジメントについて理解し、学校の教育目標の達成、学校経営上の課題の解決のために積極的に取り組んでいる。	学校の教育目標の達成や学校経営上の課題の解決に向けた組織体制づくりにリーダーシップを発揮しているとともに、同僚への支援・助言を積極的に行っている。
日常の教育活動における安全確保	全ての教育活動の基盤となる安全確保の重要性について理解している。	同僚からの助言等を得ながら、教育環境、教育活動の安全確認に努めている。	学校の安全計画を理解し、同僚と協働しながら確実な実施に努めている。	安全担当者等と協働しながら、事故の未然防止に努めるとともに、安全上の課題の把握に努め、その解消に速やかに取り組んでいる。	日頃より事故の未然防止に努めるとともに、事故発生を想定した具体的な対応について、同僚と十分に共通理解を図り、支援・助言を行っている。
家庭・地域・関係機関等との連携	家庭・地域・関係機関等と情報を共有することの大切さを理解している。	学校保健活動についての理解を促すために、情報を提供している。	学校保健活動についての理解を促すために、情報を提供し、家庭や地域等と連携・協力しながら、校務を処理している。	地域とともにある学校づくりに向け、学校保健活動の改善・充実を図っている。	学校の教育目標の達成を目指し、家庭・地域・関係機関等と連携・協力を行い、学校保健活動の改善・充実をしている。
○意欲・態度に関する指標					
		採用時の姿	ステージⅠ～ステージⅣ		
教育的愛情・熱意	教育的愛情	教育的愛情と使命感をもった教師になるという強い意志をもっている。	児童生徒に教育的愛情をもって接している。		
	信念、熱意		正しい信念のもと、熱意と使命感をもって仕事に取り組んでいる。		
	人権尊重の精神		人権尊重の観点を重視し教育活動を行っている。		
誠実・品位、公正、法令の遵守等	誠実・品位		礼儀正しい態度で誠実に仕事に取り組んでいる。		
	公正		偏りがない見方・考え方で公正に勤務している。		
	法令の遵守		職務・勤務の在り方を自覚し、厳正に勤務している。		
責任感・寛容性・協調性等	責任感		責任をもって職務の処理にあたっている。		
	寛容性		異なる意見・立場を尊重し、職務にあたっている。		
	協調性		同僚と協調して職務にあたっている。		
研修に対する意欲				自己の能力向上のために、研究と修養に取り組んでいる。	

〔提出文書等チェックリスト〕

提出文書等	参照様式	提出先	期限
☐ 中堅養護教諭資質向上研修関係書類 送付書及び評価案 〔研修前評価〕	【様式 1】 < P 14 >	≪ 県立学校 ≫ 県教育委員会教育長 (送付先：学校安全課) ≪ 市町立学校 ≫ 市町教育委員会教育長	6 月 末 日
☐ 研修計画書案	【様式 2 - 1】 < P 15 >	(注) 関係書類送付書及び 評価案と研修計画書案を併せて送 付する。	
☐ 校内実践報告書 及び校内実践成果資料	【様式 3 - 2】 < P 16 >	総合教育センター所長 (送付先：研修部)	2 月 末 日
☐ 選択研修報告書	【様式 4】 < P 17 >		
☐ 中堅養護教諭資質向上研修関係書類 送付書及び評価表 〔研修後評価〕	【様式 1】 < P 14 >	≪ 県立学校 ≫ 県教育委員会教育長 (送付先：学校安全課) ≪ 市町立学校 ≫ 市町教育委員会教育長	
☐ 研修報告書	【様式 2 - 2】 < P 15 >	(注) 関係書類送付書 及び評価表と研修 報告書を併せて送 付する。	

※送付する際は、封筒に「中堅養護教諭資質向上研修関係書類在中」と朱書してください。